

## 令和元年度 長野市中心市街地活性化プラン 数値目標フォローアップ

令和2年5月18日

### 1 目標指標の状況

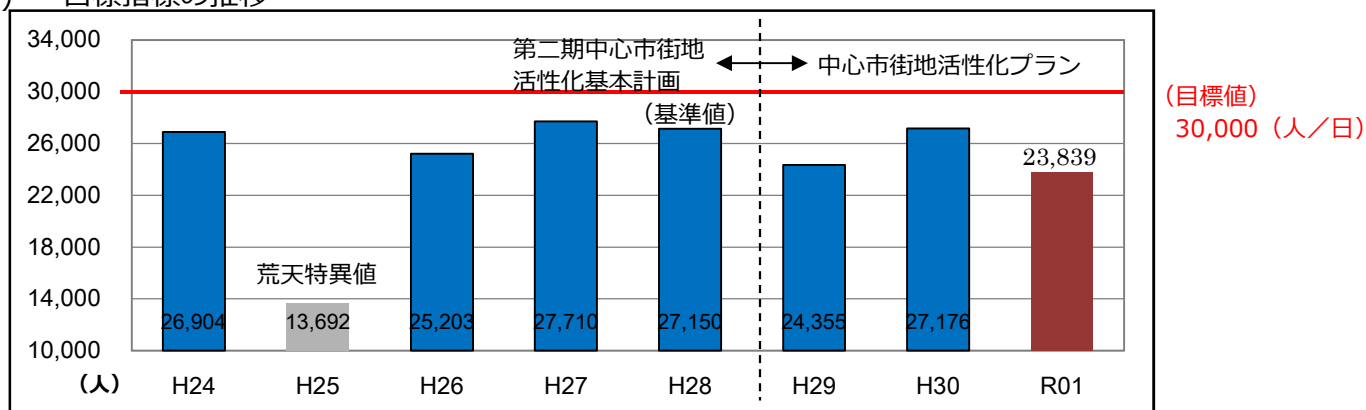
活性化の目標	目標指標	基準値 (H28)	目標値 (R03)	最新値		目標達成 状況
				数値	時点	
目標1 行きたくなるまち	善光寺仁王門前の歩行者・ 自転車通行量 (人/日)	27,150	30,000	23,839	R01.10	C
目標2 住みたくなるまち	総人口に対する中心市街地の 人口比率 (%)	2.47	2.65	2.52	R01.10	B
目標3 巡りたくなるまち	①中心市街地(6地点)の 歩行者・自転車通行量 (人/日)	112,504	108,000	111,987	R01.09	A
	②中央通り及び権堂アーケード 沿い1階部分の空き店舗数 (件)	21	21	18	R01.11	A
目標4 交わりたくなるまち	もんぜんぶら座及び生涯学習 センター並びに権堂イースト プラザ市民交流センターの利用 者数 (人/年)	560,735	583,000	496,536	R02.03	C

※ 目標達成状況

- A : 目標値以上
- B : 基準値以上、目標値未満
- C : 基準値未満

### 2 目標1「行きたくなるまち」について

#### (1) 目標指標の推移



#### (2) 目標の達成状況と今後の方針 (令和元年度の目標達成状況 C : 基準値未満)

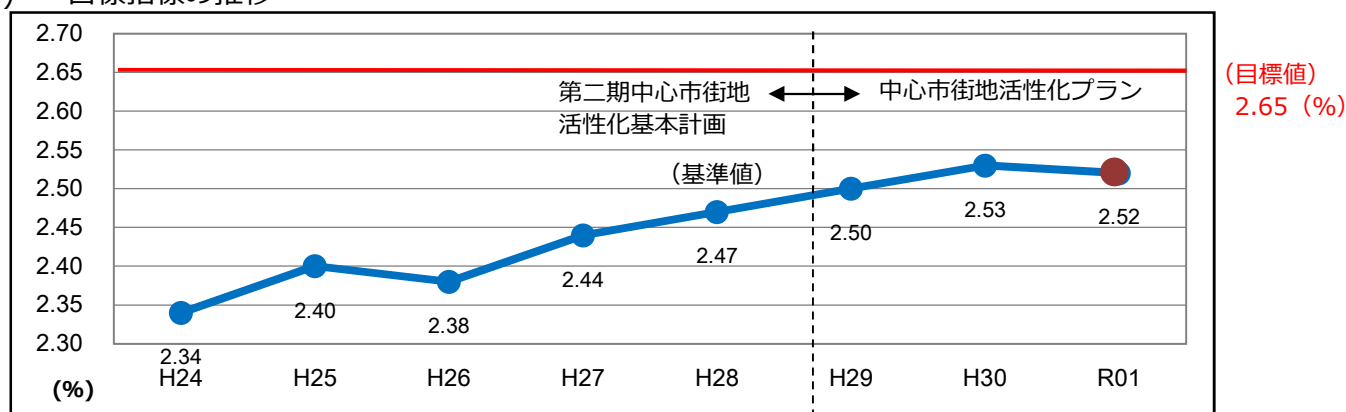
目標指標である「善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量」は昨年度と比較し約1割減少し、プラン策定時の基準値、目標値を下回る結果となった。本年度は平成29年度と同様に雨天での計測だったことから、歩行者通行量が減少したものと考えられる。

全体の推移をみると荒天による特異値だった平成25年度を除いて、測定日の天候に左右されるものの平均26,000人前後で推移しており、目標値である30,000人に到達するには「ぽていお大門運営事業」など実施中の事業による効果発現が必要である。

また、この地点の歩行者通行量は善光寺表参道にあたる南北方向のみを計測しているが、リノベーションによる魅力ある店舗が周辺に増加するとともに、街なみ環境整備によって各小路に魅力が向上することで、表参道以外を通行する人が増える可能性がある。引き続き、周辺の回遊性を高めることで表参道の通行量も減少から増加に転じ、比例して増えていくと見込まれるため、「城山公園再整備事業」等により、一帯を文化・観光・レクリエーションの拠点としての整備を図り、善光寺の南側だけでなく北側エリアを含め、「行きたくなるまち」の目標実現につなげていくなどの必要がある。

### 3 目標2「住みたくなるまち」について

#### (1) 目標指標の推移



【長野市総人口、中心市街地人口の実数】(単位: 人)

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
長野市総人口	386,882	385,897	384,641	383,639	382,249	380,593	378,351	376,104
中心市街地人口	9,057	9,245	9,157	9,351	9,426	9,516	9,585	9,472

#### (2) 目標の達成状況と今後の方針 (令和元年度の目標達成状況 B: 基準値以上、目標値未満)

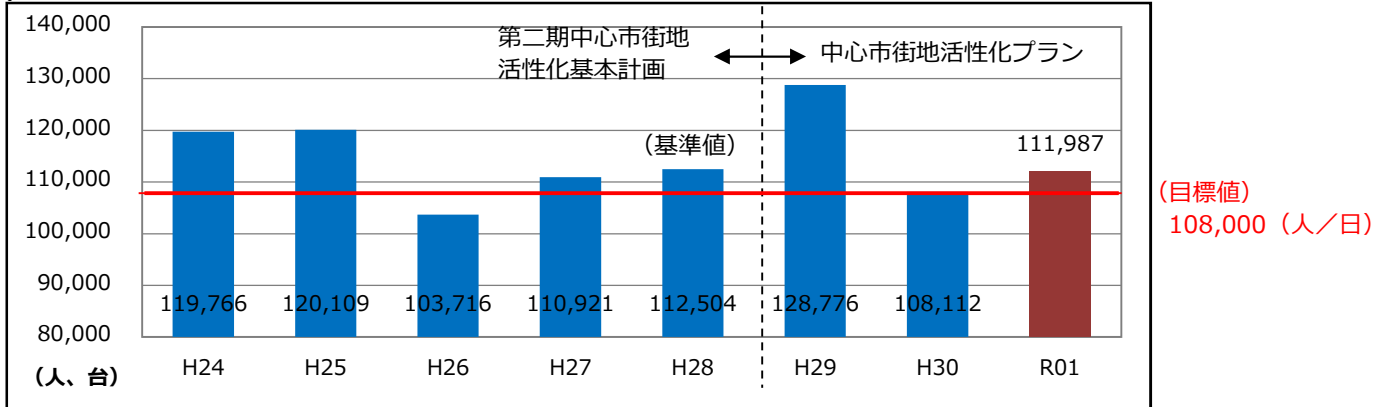
目標指標である「総人口に対する中心市街地の人口比率」は、昨年度の2.53%から0.01%減少したが、この5～6年間の全体的な傾向としては右肩上がりの状態が続いており、人口減少社会が進行する中ほぼ順調に推移している。

住民票から算出した目標指標のもととなる「中心市街地人口の実数」(上表下段)は、平成24年度の9,057人以降、この数年は9,500人前後と増加傾向にある。人口の推移を地区別にみると昨年度との比較では著しく人口が増加した地区はない。一方、大幅に減少している地区は大字栗田で、これは「長野駅周辺第二土地区画整理事業」で使用している換地後の地番と住民基本台帳の地番データの相違によるもので、事業終了後(換地処分後)には社会増として中心市街地の増加要因になるものと考えられる。

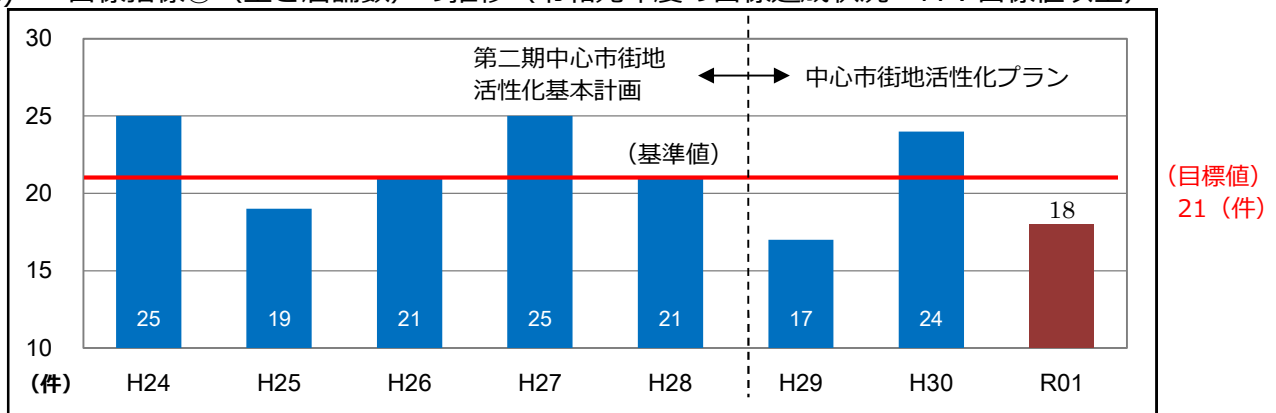
また、今後は令和3年度(2021年度)中に完成を予定している「南石堂A-1地区優良建築物等整備事業」を計画通りに進め、さらに遊休不動産活用事業で古く趣のある建物に価値を見出す若者の門前等中心市街地への転入を促していく。

#### 4 目標3「巡りたくなるまち」について

(1) 目標指標①（歩行者・自転車通行量）の推移（令和元年度の目標達成状況 A：目標値以上）



(2) 目標指標②（空き店舗数）の推移（令和元年度の目標達成状況 A：目標値以上）



#### 【空き店舗数の地域別内訳】

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	令和元年度
善光寺表参道	17件	12件	14件	17件	19件	16件	21件	14件
権堂アーケード	8件	7件	7件	8件	2件	1件	3件	4件

(3) 目標の達成状況と今後の方針

目標指標①の歩行者・自転車通行量（グラフ（1）参照）は中心市街地内の6地点（32ポイント）で測定している。「晴」であった本年度の測定値は「曇り後雨」であった前年度と比較して増加しており目標値をわずかに上回った。内訳は歩行者93,961人、自転車18,026台で、前年度との比較では歩行者が1,913人の減少、自転車が5,788台の増加であった。6地点それぞれの前年度との比較では大門駐車場と末広町で減少、その他の権堂町、権堂大通り、長野銀座、南千歳町で増加であった。

引き続き、周辺の回遊性を高めることで歩行者通行量も増加するものと見込まれるため、「まちなか賑わい創出事業」や「中央通り歩行者優先道路化事業（Ⅱ期）」などにより、これまで以上に回遊性の向上を推進し、「巡りたくなるまち」の目標実現につなげていく必要がある。

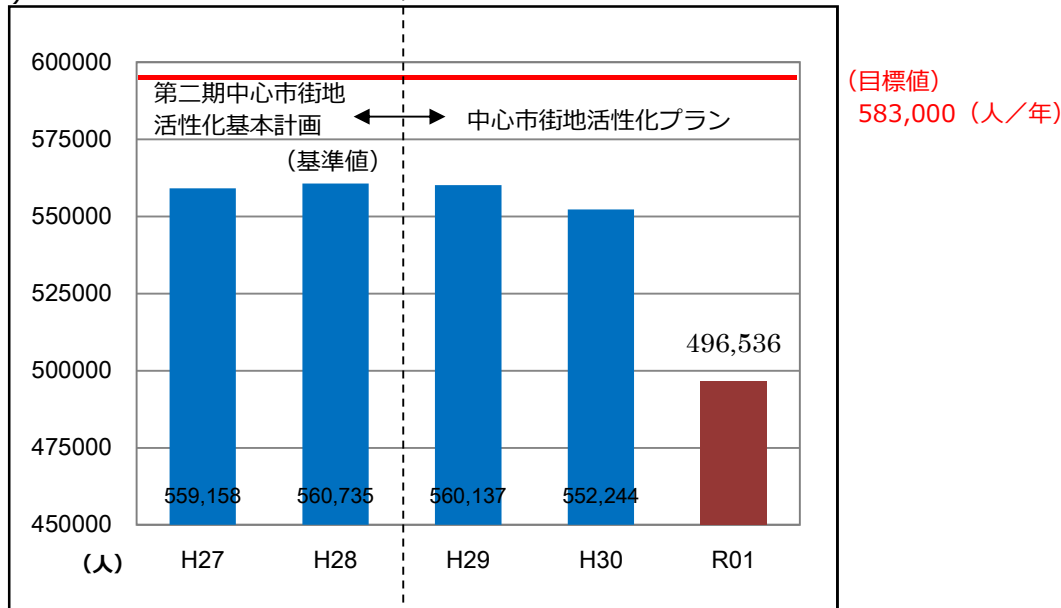
目標指標②の中央通り及び権堂アーケード沿い1階部分の空き店舗数（グラフ（2）参照）は、「県庁緑町線沿線地区整備事業」が具体的に始まり、県庁緑町線用地に残っていた空き店舗の解体も終わったことで指標に影響した。空き店舗数は昨年度から6店舗減少し、ほぼ平成29年度と同数まで減少した。内訳は、本年度の新規出店等による空き店舗解消10件、前年度からの継続空き店舗14件、本年度の新規空き店舗4件である。特に善行寺表参道の空き店舗解消が多い。

今後も「集客イベント等開催事業」や「空き店舗活用事業」、「チャレンジショップ」の相乗効果で

空き店舗を減らしていくなど、「巡りたくなるまち」の目標実現を維持していくことが必要である。

## 5 目標4「交わりたくなるまち」について

### (1) 目標指標の推移



### (2) 目標の達成状況と今後の方針 (令和元年度の目標達成状況 C：基準値未満)

目標指標である「もんぜんぷら座及び生涯学習センター並びに権堂イーストプラザ市民交流センターの利用者数」は、前年度より55,708人、3年前（基準時）と比較すると64,100人（約1割）減少した。

「もんぜんぷら座」の利用者数は前年度より43,415人減少、「生涯学習センター」は前年度より8,875人減少、及び「権堂イーストプラザ」は前年度より3,418人減少している。また、3施設の4月から9月の利用者合計数は前年度より7,060人減少し、10月から3月の利用者合計数は前年度より48,648人減少しており、これらすべての施設において、「台風19号の被災」、「新型コロナウイルス感染症対策」の影響等が共通していると考えられる。

また、もんぜんぷら座の「ぷら座BOX」と「ぷら座ホール」の12月から1月の利用者が前年度より8,839人減少しており、これらの施設が耐震補強工事で利用することができなかったことも全体の利用者減少に影響を及ぼしていると考えられる。

さらに、もんぜんぷら座の「こども広場 じゃん・けん・ぼん」の利用者が前年度より8,918人減少している。原因は、少子化社会の著しい進行、共働きなどで保育施設に正式に子どもを預けるニーズの高まり、民間の類似施設との競合などによるものと思われる。

今後は、社会情勢性の変化に応じて各種イベント、講座・講演会、学習室開放等を実施し、「交わりたくなるまち」の目標実現を目指していく。